

魔法の種プロジェクト

自己紹介

香川県立高松養護学校 小豆島分室 近藤創



訪問学級の担任をしています

対象児

高等部1年 水頭症



重度重複障害のあるこどもたち（表出の少ない）と学習してきたの悩み

悩み① 子どもの反応が乏しい
コミュニケーションがとれない

悩み② 何を教えたらいいのかわからない
授業の目標が「雰囲気味わう」や、「経験する」になりがち

悩み③ アセスメント
アセスメント、文字や言葉ではわからない

具体的に

運動会では先生が後ろから手を持って応援したり、ダンスを踊るが、そこを教育としてどう考えるのか

例えば図工では、子供ができることが少ない

朝の会、帰りの会は何のため？（中邑先生と青木先生の問題提起）

悩みながら試行錯誤の日々（運動会）

ラジオ体操や、ダンスでは子供の手首を持つのではなく、子供が教師の指を握るようにし、受動的な中にも能動的な部分を少しでも増やそうとした。

雰囲気味わうことを目標に設定した。

応援グッズを作って、楽しみながら応援できるようにした。

悩みながら試行錯誤の日々（図工編）

子供の手形、足形を利用したり、手に筆を持たせ紙を教師が動かすことで少しでも子供のオリジナリティを増やせるようにした。はさみを教師と一緒に握ることで少しでも子供が感触を感じられるようにした。

寝たままの姿勢で遊べる室内凧や、振って遊べるおもちゃ、ビニールがさ越しに透けて見えるおもちゃなど、作った後生させるものを作成するようにした。

スイッチを取り入れて少しでも子供の活動を増やそうとした。

伝統的にしてきたことへの疑問

- ・朝の会や帰りの会、なぜする？（魔法の宿題プロジェクトで中邑先生と青木先生との話）

目標は確かに立てている。しかしなぜ
といわれると、、

時間割や掲示物、少しでもかわいくわかりやすいものを。

活動を増やせるように自分でめくれる日めくりカレンダーを準備。

スイッチを使って号令をかけるが、スイッチを押すことで満足している自分がいる。

・高松養護学校の佐野先生谷口先生の 「飲み物を選ぶワークショップ」

・自分の意思を明確に発信できない子供を観察し、二種類の飲み物からより好きな一本を見極めるというワークショップ。



・よく観察してどちらがより好きか当てることができた！



・当てることができたが、焦りをもった。

「子供たちが本当に望んでいるものを知っている」という固定概念を砕く発想

- ・子供のことを知っているつもりになるということの恐ろしさに気づけた。とても印象深い実践。
- ・子供の反応をじっくりと見る大切さとその日その日で変わる気持ちを見つける難しさを再確認した。

同時に責任の重さをすごく感じることに、、、子供の気持ちは今までの実践では汲み取り足りない。子供のことをもっともっとちゃんと知らなくてはという焦りを強く感じた。

OAKを使用しての実践

教師や保護者が気づけなかった子どもの表出を可視化できるすごさ

逆に表出がないことも可視化できる説得力

半面 準備と分析の手間

じゃあ、すぐに、どうしたらいいのか？

今までの活動も、子供の様子をもっともっともっともっと、いつもいつも見てみたらいいのでは？

子供の「今のは？」という反応を逃さないようにすればいいのでは？

見るだけでは見落とししたり、分析しきれないので、簡単に利用できるiPadを使って録画したらいい！

早速してみました

ずっとビデオを撮りながら授業を行う。

データが膨大すぎて、反応を見つけるのも難しいし、ハード的にも管理ができない。

ずっとずっとまで行かなくても、「おや？」「今のは？」を見つけることから始めてみる

そこで使用したドライブレコーダーのような
アプリ「さかのぼりビデオ」

さかのぼりビデオ

開発: Sakanobori.com

App を購入、ダウンロードするに



iTunes で見る

+ この App は iPhone、iPad の
両方に対応しています。

¥360

0秒から1分前までのタイムシフト撮影ができる



セッティングさえしておけば、今の録画したい！というときにボタンを押せばさかのぼって録画が可能に



より必要な動画だけ残せるので、後で動画を利用するときにとっても効率が良い

つまり、、

あ！今の録画しとけばよかった、、がなくなる

そして、意図のある録画が増えるので整理や分析がとてもしやすくなる



準備物

①iPad アプリ「さかのぼりビデオ」

②iPad固定用のアーム

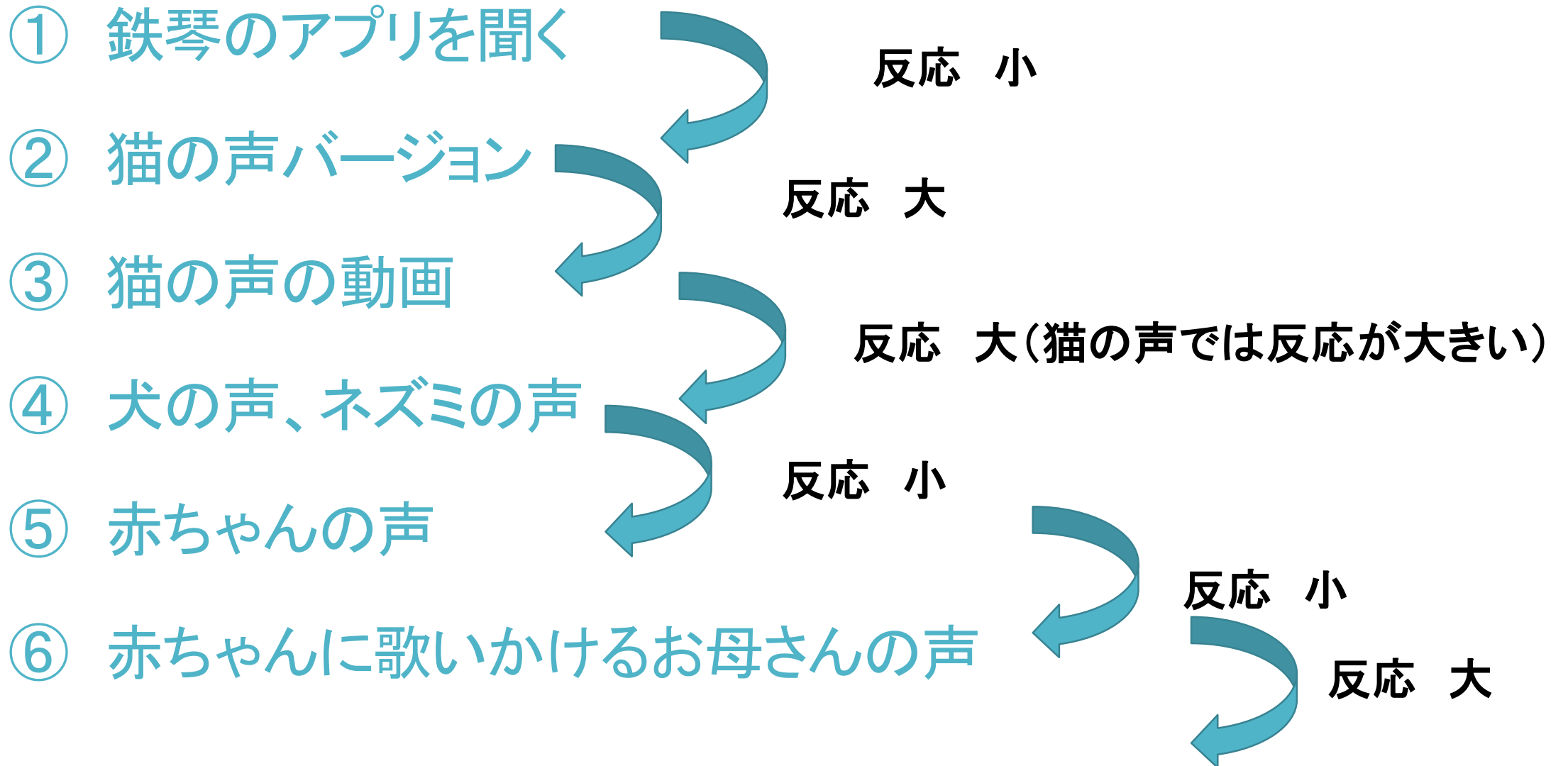
- 常時セッティングしておいて、活動をするときに記録
- 後で確認したい行為があった時にさかのぼり記録

実際に動画を撮りながら活動をしてみたら。

動画を撮るうちに子供の実態が少しずつ分かるようになった。

わかったことをもとに様々な仮定を立てることができ、数珠つなぎに授業が展開していった。

次々つながる（子供とのコミュニケーション）



今までの授業でも発見が増える！！

歯磨きをしていて、ふと振り返ると表情に大きな変化が。

早速振り返って見てみると、コップのふちを歯ブラシでたたいている音に反応しているらしい

何回か、そして違う日に試しても再現度がとても高い



子どもの発信に気付くことができた！

子どもと接することがもっと楽しくなる

・絵本を読むときは、どういった言葉かけがいいのか、どんな色が好きなのか、様々な視点でさらに考えながら取り組むことができる。

・これはどうだろう？どんな反応かな？子供とのやり取りが双方向的なもの（コミュニケーション）になり、もっと楽しくなる。

保護者の方と一緒に行動することができた

「これはどうだろう？ こういうことがあったんです。家でもやってみます。」

今まで、保護者と教師間で子供の実態に関する認識が必ずしも一致できていなかった。

動画を使うことで、具体的に子供の反応を考えることができ、共有ができ、発展のアイデアもたくさん出るようになった。

運動会や図工、朝の会でも、きっと発見がある

- ・後ろから手を持って応援しながら、ダンスを手伝いながら、子供の様子をしっかりと見る(できればビデオ撮影)。どの場面で表出があるのか、またはないのか。いつもと違う場面なのできっとチャンスが大きいはず。
- ・子供の表出を見つける手立てができれば、今までと同じ授業でもきっと全く違ったものになる。

まとまった感じですが、、もう少し

重度重複障害のある子どもたち（表出の少ない）と学習してきたの悩み

悩み① 子どもの反応が乏しい
コミュニケーションがとれない

悩み② 何を教えたらいいのかわからない
授業の目標が雰囲気味わうや、経験するになりがち

悩み③ アセスメント
使えないアセスメント、、、「できない」ばかり、、

たくさん動画、もっと生かせるはず

アセスメントとして、サポートブックとして、よいコミュニケーションのスタートのためのツールとして

名刺用動画¥デジタル名刺

nakajima.pptx

動画を使って児童を観察し、客観的に言えることを利用してデジタル名刺を制作する

制作上で大切なこと

- ・本人が得をするような内容を入れるように心がける
- ・「喜んだ」といった、具体性に欠けるものは事実として見せるだけで決めつけない
- ・再現性があるか確かめる
- ・相手の人、体調、その他いろいろな要素を考える
- ・次々と新しい情報を加えていき、一生使えるツールにする。そのために簡単に作れるものにする

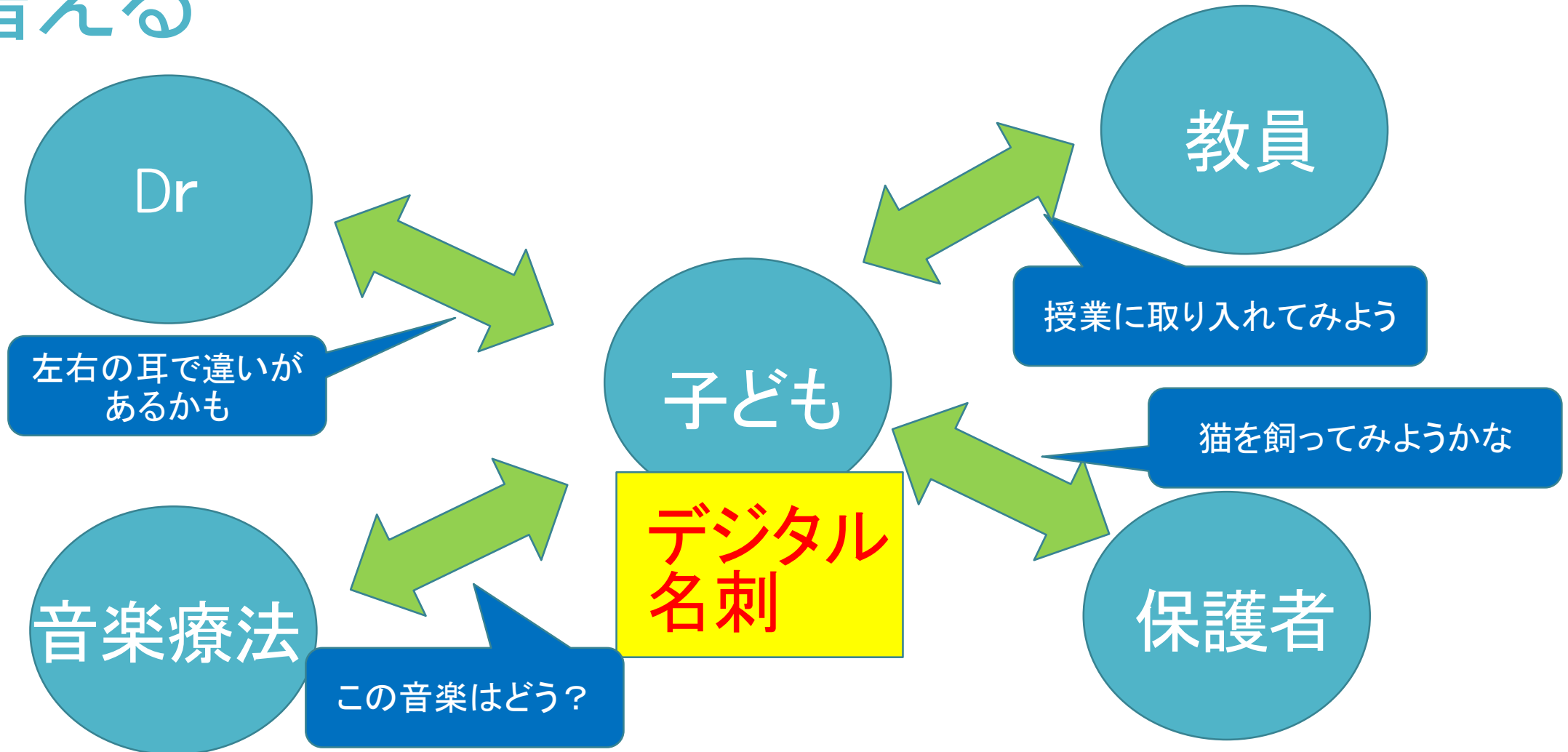
大事なこと

・判断は受け手にゆだねる→見た人によって思うことが違っていい。見る人によって感じたことをもとにその人なりに接してもらう

好きです→表情がAに変わります

嫌いです→表情がBに変わります

人によって、得意な点も感じ方も違う。
だからこそコミュニケーションでチャンスが増える



子どもの日常の様子をビデオに録画しながら取り組むと、色々な発見やいいことがありました。

簡単に始めることができ、楽しいコミュニケーション。そして、今後につながるツールまで！

ご清聴ありがとうございました！